

目 次

刊行にあたって	i
例 言	ii
目 次	iii

第Ⅰ部 湯舟坂プロジェクトの軌跡

湯舟坂プロジェクトの軌跡	諫早 直人	3
--------------	-------	---

第Ⅱ部 湯舟坂2号墳を学術資源化する

1. 湯舟坂2号墳と丹後地域の後期古墳	菱田 哲郎	19
2. [コラム] 古墳で見る川上谷、そして伯耆谷	奥 勇介	29
3. 「丹後王国」の系譜—湯舟坂2号墳の被葬者像をめぐる—	本庄 総子	33
4. 装飾付大刀からみた湯舟坂2号墳被葬者の性格	金 宇大	41
5. 湯舟坂2号墳出土鞍金具・大刀・銅鉞の科学分析	山口 繁生・初村 武寛	57
6. 湯舟坂2号墳出土鞍金具・鉄鏃の意義	土屋 隆史	69
7. 木棺からみた湯舟坂2号墳	守田 悠	87
8. [コラム] 湯舟坂2号墳出土貝装馬具の素材	黒住 耐二	93
9. [コラム] 湯舟坂2号墳出土貝装馬具、もう一つの海の道	諫早 直人	97
10. 湯舟坂2号墳の土器と被葬者像	稲本 悠一	99
11. [コラム] うつわの大変革—湯舟坂2号墳出土の土器が示すこと—	菱田 哲郎	111
12. [コラム] 須恵器もどきの土師器—湯舟坂2号墳からみた器の革新—	菱田 哲郎	113
13. 重量から考える湯舟坂2号墳出土須恵器の生産	溝口 泰久	115
14. [資料] 湯舟坂2号墳出土品の重量	諫早 直人・溝口 泰久	119

第Ⅲ部 湯舟坂2号墳を地域資源化する

1. 古墳を地域資源化する—湯舟坂プロジェクトを通じて考えたこと—	諫早 直人	131
2. 地域の中の湯舟坂2号墳—湯舟坂2号墳の発掘調査がもたらしたもの—	新谷 勝行・奥 勇介	141

3. [コラム] 湯舟坂2号墳の発掘調査をふりかえる	奥村 清一郎	151
4. [コラム] 黄金の大刀の発掘とその後	新納 泉	155
5. [資料] 湯舟坂2号墳出土装飾付大刀の実測図	新納 泉	159
6. 開ける、調べる、閉める—黄金の大刀を遺し・伝える保存科学—	塚本 敏夫	163
7. 写真技術で挑む湯舟坂2号墳	栗山 雅夫	167
8. 海洋としての日本海から考える丹後の日本海文化	森島 康雄	183
9. 京都府立大学生による湯舟坂プロジェクトの取り組み	吉永 健人	197
10. [資料] 京都府立大学生による文化遺産活用の取り組み	京都府立大学文学部考古学研究室	203
11. [コラム] 大学が行う「湯舟坂プロジェクト」始動当初の取り組み	土井 悠起	217
12. [コラム] 細見、そして再検討—湯舟坂2号墳細見展から—	森島 康雄	219
13. [コラム] 「つなプロ」に見る多様な主体との地域連携のあり方	中西 俊介	221
14. [コラム] 湯舟坂 PROJECT の関わりの中で須田区の未来を考える	岸本 卓也	223
第Ⅳ部 湯舟坂プロジェクトの周辺		
1. 丹後半島所在龍鳳文環頭大刀の調査		
—智恩寺所蔵単鳳環頭大刀と高山12号墳出土双龍環頭大刀—	諫早 直人・栗山 雅夫・初村 武寛・金 宇大	227
2. 智恩寺所蔵鏡の調査	馬淵 一輝	259
3. ソウル地域における文化遺産活用の実例—古代城郭遺跡を中心に—	尹 星鎬 (井上 直樹訳)	267
総 括	諫早 直人	281
執筆者一覧		285

編集後記

2020年に始まる「湯舟坂プロジェクト」は早くも6年目に突入している。教員生活のほとんどを久美浜に捧げてきたといえば大げさだが、府大に着任したのが2018年なので、私だけでなくたくさんの教え子がそれまで縁もゆかりもなかった久美浜に足繁く通ったことは確かである。3回分の成果報告会資料集をまとめて一書にしようと、気軽な気持ちで本書の制作を思い至ったが、皆さんお忙しく、思いのほか難産だった。スケジュールに追われる中、献身的に編集作業を手伝ってくれた二人の大学院生には感謝してもしきれない。

なお、湯舟坂プロジェクト立ち上げ時から一緒に仕事をしてきた、菱田哲郎先生が今年度でご退職される。まだ隣の研究室には山積みの荷物があるので実感がわからないが、1994年に開設した府大考古にとって最大の岐路であり、寂しい限りである。様々な仕事を通じて文化遺産の地域資源化の重要性を教えていただいた学恩に感謝するとともに、兵庫県と接する久美浜にこれからも足繁くお越しいただければと思う。(い)

表紙写真

- 上左 双龍環頭大刀調査風景（諫早直人撮影）
上中 第2回 ACTR 成果報告会風景（栗山雅夫撮影）
上右 「つなプロ」風景（諫早直人撮影）
下 湯舟坂2号墳出土双龍環頭大刀（栗山雅夫撮影）
裏表紙写真 湯舟坂2号墳全景（南西から。栗山雅夫撮影）



京都府立大学文化遺産叢書 第33集

地域資源としての湯舟坂2号墳

編集 諫早 直人（京都府立大学文学部准教授）
発行 京都府立大学文学部歴史学科
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5
<https://kpu-his.jp/>
発行日 2025年3月6日
印刷 北斗プリント
〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2